

# 令和6年度 大分県 「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」について



おおいたユニバーサルカレッジ（茶道教室）



大分大学生涯学習講座（絞り染め体験）



特別支援学校出前講座（ドローンサッカー）



青少年の家ワンデイキャンプ（散策）

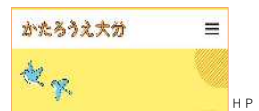
大分県教育庁社会教育課

## 生涯を通じた障がい者の学び支援事業 ～共に生き、学ぶ社会の実現に向けた生涯学習支援に関する実践研究～ **R4～R6**

「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」（国庫委託10/10）

これまでの取組による成果と課題

- 地域連携コンソーシアム会議の実施・社会教育・特別支援教育・障がい福祉関係者の連携体制の構築
- 実態・ニーズ調査及び大学や社会教育関連施設（公民館等）、特別支援学校における講座の実施
- 専用情報サイト「かたろうえ大分」開設：障がい者の学びに関するイベントや活動団体情報の集約・発信
- 県内への普及に向けた広報の工夫が必要
- 障がい者が参加しやすい学びや体験の機会は地域によって偏りがある



～共生社会の実現に向けた、障がい者の生涯学習支援～

具体的取組

- I 【推進協議会（コンソーシアム）の実施】（年3回）**  
 （内容）関係機関のネットワーク化（情報や課題を共有し、取組について協議）  
 （構成）県教委、県障害福祉課、特別支援学校、大分大学、市教委、県社会福祉協議会、社会福祉法人、企業、障がい者支援団体、生涯学習関係団体
- II 【調査研究】**  
 ○先進地の視察（東京都国立市、近畿地区コンファレンス）→取組に還元  
 ○3年間の研究結果についてまとめた**報告書**を作成→令和7年3月発行
- III 【実践研究】**  
 ○大分大学生涯学習講座（4回）  
 ○県立青少年の家での一般利用に向けた体験活動（自然散策、創作活動）  
 ○モデル公民館・図書館（6館）→講座（スポーツ、調理実習、スマホ教室など）  
 ○特別支援学校出前講座（8校）→在校生を対象にした「卒業後の学び」紹介・体験  
 ○民間との連携協働による公民館での出前講座実施
- IV 【普及啓発】**  
 ○障害平等研修（DET＝Disability Equality Training）の実施による支援者の資質向上  
 ○恒常的な活動・交流ができる「学びの拠点」＝「おおいたユニバーサルカレッジ」設置  
 ○「県内コンファレンス（実践交流会）」開催  
 ○情報発信…「かたろうえ大分」（専用ページ）の充実

- 【重点：1年目】R4  
 ①コンソーシアム体制整備  
 ②調査研究 ③HP開設  
 ④実践研究の実施

- 【重点：2年目】R5  
 ①県下への普及（研修・HPの拡充）  
 ②社会教育施設での講座拡充

- 【重点：3年目】R6  
 ①関係者の連携体制の確立  
 ②学校教育から社会教育への円滑な接続、保護者への普及啓発  
 ③学びの拠点構築、県内全域での講座等の実施  
 ④情報の一元化、アクセシビリティの保障

効果

- 障がい者の学びを支援する人材の育成
- 障がいの有無に関わらず地域で共に学べる場や機会の拡大
- 持続可能な学びの体制の構築

事業実施日程一覧 ※数字は日付

月	コンソーシアム	調査研究	実践研究	普及啓発
5	第1回連携協議会 (31)			公民館等講座支援者研 修(日田市)(23)
6			モデル公民館講座(中津)(2)	おおいたユニバーサル カレッジ(OUC)開講、講 座(1, 11, 18, 25) 公民館等講座支援者研 修(中津市)(24)
7			モデル公民館講座(国東)(6) モデル公民館講座(中津)(7) モデル公民館講座(豊後大野)(16) モデル公民館講座(由布)(22)	障害平等研修(19) 「かたろうえ大分」改修 OUC(9, 13, 16, 23, 30)
8			モデル公民館講座(国東)(3) モデル公民館講座(豊後大野)(6) モデル公民館講座(杵築)(24) モデル公民館講座(中津)(25)	OUC(3, 20)
9			モデル公民館講座(中津)(1, 29) モデル公民館講座(豊後大野)(3) モデル公民館講座(由布)(12) モデル公民館講座(国東)(21)	OUC(7, 10, 17)
10	第2回連携協議会(15)		モデル公民館講座(豊後大野)(1) 特別支援学校出前講座(3, 19) モデル公民館講座(国東)(5) かかぢワンデイキャンプ(8, 15) モデル公民館講座(杵築)(12)	OUC(5, 8, 15, 22)
11		先進地視察(国立市) (15) 近畿ブロックコンファレン ス参加(オンライン)(27)	モデル公民館講座(中津)(3) モデル公民館講座(日田)(3, 24) モデル公民館講座(豊後大野)(5) かかぢワンデイキャンプ(6, 13) モデル公民館講座(由布)(11) モデル公民館講座(国東)(16) 大分大学生涯学習講座(23)	公民館出前講座(17) OUC(12, 19, 26)
12			モデル公民館講座(中津)(1) モデル公民館講座(豊後大野)(3) ここのえワンデイキャンプ(7) 大分大学生涯学習講座(7, 21)	公民館出前講座(15) OUC(10, 17, 24)
1		先進地視察(千里金蘭 大学コンファレンス)(12) 宮崎コンファレンス(オン ライン)参加(18)	モデル公民館講座(中津)(5) モデル公民館講座(豊後大野)(14) モデル公民館講座(由布)(21) モデル公民館講座(杵築)(24) 特別支援学校出前講座(21, 28, 29, 31)	OUC(14, 21, 28)
2	第3回連携協議会(19)		モデル公民館講座(中津)(2) 特別支援学校出前講座(4, 18) ここのえワンデイキャンプ(22) 大分大学生涯学習講座(8)	公民館等講座支援者研 修(由布市)(7)
3		報告書発行(7)	かかぢワンデイキャンプ(2)	

# I 地域連携コンソーシアム

## 第1回地域連携コンソーシアム会議(R6/5/24)

- (1) 令和5年度の事業報告、令和6年度の事業展開案について  
 (2) 障がい福祉と社会教育の連携のあり方について  
 <意見>
- ・**中学校の情緒学級や放課後デイサービスと連携**し、取組を周知すると良い。
  - ・既存の公民館活動に障がいがある方が参加できるような仕組みづくりをする等、新たにハード面を整備するのではなく、**「今あるもの」を活用して、ソフト面を社会教育が提供する。**
  - ・**相談支援専門員**にこの取組を知ってもらう機会をつくとよい。
  - ・**「熱くなる人」を発掘・育成**して、その人が異動しても続けられる組織として**持続可能なしくみやシステムづくり**をすすめる。

## 第2回地域連携コンソーシアム会議(R6/10/15)

- (1) 令和6年度の事業進捗状況について  
 (2) 県立図書館バリアフリー読書サービス説明  
 ・体験



# II 調査研究

## 【東京都国立市公民館】

- 【日時】令和6年11月15日(金)  
 【対応者】井口 啓太郎氏(国立市公民館 館長補佐)  
 土屋一登氏(一般社団法人眞山舎 代表)  
 【内容】公民館の青年教育・障害者教育の歴史と現在の説明と質疑  
 「リカバリーの学校@くにたち」の取組についての説明と質疑  
 「喫茶わいがや」等施設見学  
 【学んだこと】
- ・**個人の学習ニーズに適切に応じ**、「誰一人置き去りにしない」ことを目指して公民館講座を実施している。
  - ・**福祉や企業と連携**することで取組の幅が広がる
  - ・疾患や生きづらさを抱える方々にとって**「対話」**を中心とした体系的なプログラムが有効である。

## 【近畿ブロックコンファレンス】

- 【日時】令和7年1月12日(土)  
 【場所】千里金蘭大学(大阪府)  
 【対応者】大阪信愛大学、静岡大学、長野大学、愛媛大学  
 【内容】四大学の合同活動報告、ディスカッション、講演等  
 【学んだこと】
- ・オンデマンド活用、STEAM、訪問カレッジ等、学校卒業後における学び支援に資する大学講座は多岐にわたる
  - ・**Safety(安全)**、**C**hallenge(挑戦・選択)、**H**ope(将来の希望)の、SCHoolの最初の三文字を大切に教育に携わる必要がある
  - ・ボランティアをする積極的な理由がないと、アルバイト等の優先順位に負けてしまう

# III 実践研究 大学や社会教育施設でのプログラム開発

## ①大分大学 生涯学習講座

詳しくは実践発表で！

- 令和6年度講座(全4回)  
 第1回「アート・ワークショップ①」  
 第2回「アート・ワークショップ②」  
 第3回「豊後絞りを学び、絞り染めを体験しよう①」  
 第4回「豊後絞りを学び、絞り染めを体験しよう②」

受講登録者 **10名** 学生ボランティア3名  
 講師 4名 メンター(支援者) 2名



アートワークショップ

絞り染め体験

## ②青少年の家ワンデイキャンプ(日帰りプログラム)

- (香々地青少年の家) **5回**実施  
 R6/10/ 8 弘心園(宇佐市)  
 10/15 ひまわり苑(豊後高田市)  
 11/ 6 NPO法人まど(中津市)  
 11/13 いちちょうの森(豊後高田市)  
 R7/ 3/ 2 市社会福祉協議会(中津市)

- (九重青少年の家) **2回**実施  
 12/7 玖珠町・九重町自立支援協議会  
 R2/2/22 フラット(日田市)

新 **ユニバーサルプログラム** 11/16 予定  
 →主に日田・玖珠・九重地域の**一般就労者対象**プログラム  
 →参加者が集まらず**中止(延期)**・・・内容・交通アクセス・・・改善点を探る必要

### <成果> プログラム例の完成

- \*利用者さんの動線を配慮したスムーズな案内誘導
- \*休憩時間の確保
- \*合理的配慮の積み重ね(靴べら、椅子の準備等)

### <活動の工夫>

- 利用者自身が活動を選択・決定できる場面の設定
- 所内散策の地図を作成→説明動画を制作
- 所内散策の「平地コース」を開拓
- クイズやビンゴ



# III 実践研究 大学や社会教育施設でのプログラム開発

計 30 講座実施！

実施館	講座(教室名)	実施月・回数	内容	
豊後大野市千歳公民館(3年目)	「ひょうたんカレッジ」	7~12月 6回	粘土工作、レクスポーツ、安全(防災)、料理、絵手紙(年賀状)、ピラティス、楽器演奏	☆事業所との連携 ☆当事者のニーズに応える先進的な講座内容 ☆地域人材の掘り起こし
由布市庄内公民館(2年目)	「ゆふボきらきら教室」	7~12月 4回	ボッチャ・夏祭り、アート制作、映画鑑賞・工作、料理	☆全課体制で取り組む ☆毎回振り返り実施 ☆子どもたちとの交流機会を創出
中津市生涯学習センターまなびん館(2年目)	「まなび場」 詳しくは実践発表で！	6~2月 9回	料理(午前)+運動(午後)	☆地域で自立して豊かに生きるために必要な「料理と運動」という明確なコンセプト
国東市内公民館(新規)		7~11月 5回	多肉植物寄せ植え(3回)、卓球バレー、3B体操	☆アウトリーチ方式、事業所でも実施 ☆地域人材の活用 ☆交通手段の提供(バス)
杵築市立図書館(新規)		7~1月 4回	絵手紙、バリアフリー映画上映会、ミニミニオリンピック、デイジー図書及び大活字本の紹介及び体験会	☆初のモデル図書館 ☆障がいのあるなしに関わらず、だれでも参加できる講座を実施
日田市内公民館(新規)		11月 2回	ボッチャ、料理教室	☆入念な準備と振り返り→公民館職員との研修 ☆相談支援専門員との連携体制構築

## 地域的な広がり



○ はモデル公民館のある自治体

— は市町村予算で取り組んでいる自治体

↓ 大分市坂ノ市公民館  
白杵市野津中央公民館  
別府市中央公民館

### III 実践研究 特別支援学校出前講座

	日時	校名	対象	内容	特色
①	R6/10/3	大分大学教育学部 附属特別支援学校	高等部3年生	ドローンサッカー	あすぴあ(県身体障害者 福祉センター)紹介
②	R6/10/19	日田支援学校	同窓生	①風船バレー ②バスボムづくり	日田の活動団体(ふうせ んバレー協会)紹介
③	R7/1/21	日田支援学校	高等部2,3年生	①アート制作 ②モルック	日田の公民館講座紹介
④	R7/1/29	南石垣支援学校	高等部3年生	①しおり制作 ②ダンス	別府市中央公民館講座 紹介
⑤	R7/1/29	さくらの杜高等支 援学校	3年生	①ズンバ ②ドローン操作	「おおいたユニバーサル カレッジ」紹介
⑥	R7/1/31	大分支援学校	高等部3年生	①卓球バレー ②フライングディスク ③ドローンサッカー ④絵手紙	<b>あすぴあにて開催</b> →卒業後に利用しや すく!
⑦	R7/2/4	臼杵支援学校	高等部1~3年生	①絵手紙 ②ドローンサッカー	臼杵市「風車チャレンジ 教室」紹介
⑧	R7/2/18	中津支援学校	高等部3年生	①ストラックアウト&ス カットボール	中津市社会福祉協議会 「てくてく」紹介

◎卒業後の学び・交流について考え、体験する機会をつくる  
◎地元の施設や講座につなぐ

## IV 普及啓発

### 【学びの拠点】

「おおいたユニバーサルカレッジ」令和6年6月1日開講！

#### 【目的】

- ・障がいがある方が憩い、仲間と交流し、学びの拠点をつくることで「障がい者の生涯学習」の推進を図る
- ・「公民館との協働講座(出前講座)」を実施することで県内全域への普及・展開を図る
- ・障がい者の生涯学習を支援する人材の発掘・育成を行う

#### 【実施形態】

- ・場所: 県立さくらの杜高等支援学校 1F 販売実習室
- ・日時: 毎月第1土曜日10:00~11:45  
第2~第4火曜日 16:30~18:00
- ・対象: 特別支援学校、支援学級などを卒業した18歳以上の方
- ・運営: 「ヨカタの」に委託
- ・内容: 相談、講座(美術、音楽、料理等)
- ・費用: 原則無料(材料費は別途徴収)
- ・スタッフ2~3名、利用者5~6名/回
- ・通常講座: 31回、公民館出前講座 2回実施(R7/1/25時点)



通常講座



公民館出前講座

詳しくは実践発表で！

# IV普及啓発



「かたろうえ大分」トップページ

## 【研修】

### ①社会教育施設（公民館等）講座支援者研修

(1) 日田市AOSE : R5/5/23 (木)

(2) 中津市生涯学習センター まなびん館 : R5/6/24



講師：高橋徹弥先生



・ワークショップで協議をしたことによって、**配慮の視点が広がり**、有意義な研修だった。

・同じ公民館職員でも、ひとつのワークショップに多様な意見が出た。実際に事業として行う場合も、**多くの意見を共有して進めること**が肝要であると感じた。

### ②DET（障がい平等研修）：R5/7/19（金）

於：県教育センター



・研修が進む中で、自然に自分にかかっていたと思われる**バイアスが溶けていく**感覚を覚えました。

・身近なところから自分が取り組めることを行動にうつすとともに、障がいのある方が何を望んでいるのかを学び、**聞く機会を自分から作っていき**たい。

- 【広報】
- ・障がい者の生涯学習専用WEBサイト「[かたろうえ大分](#)」改修  
(①学習動画のトップページ表示 ②学習動画専用ページの作成)
  - ・大分県のHPのトップページ「スライドショー」に掲載

## 成果と課題

### <成果>

- ・学びの拠点・居場所「**おおいたユニバーサルカレッジ**」を開講  
→「学びたい人」と「場」をつなぐ「ハブ」としての役割も今後期待
- ・市町村の障がい福祉関係課、社会福祉協議会、自立支援協議会等との連携拡大
- ・社会教育関係施設(公民館、青少年の家)での講座の拡大
- ・特別支援学校出前講座の拡大(R4:3校→R5:5校→**R6:8校**)

### <課題>

- ・学校教育→社会教育への円滑な接続(誘導)のための有効な手段は？
- ・全県的な取組の広がりには至っていない
- ・「かたろうえ大分」の周知拡大、情報収集が必要
- ・イベントや講座の受講者が集まらない
- ・ボランティア、支援者の確保と養成

共に学び、生きる 共生社会コンファレンス(モデル公民館)

2025.1.25

## 障がい者と学びをつなぐ 「まなびば」の取り組みを通して

～中津市 生涯を通じた障がい者の学び支援事業～



中津市生涯学習センター長  
社会教育主事 山本 健吾

### 中津市社会教育施設の状況

- 公民館(コミュニティーセンター)15館 分館10館 計25館
- 中津市生涯学習センター 1館
- 図書館、歴史博物館、スポーツ施設など

全ての社会教育施設は障がいがある、ないに関わらず、すべての人に対して「いつでも、どこでも、だれでも」学ぶことができる生涯学習の場をつくっている。



### 障がい者利用の現状

- ・障がいがある人の利用はほとんどない。
- ・障がい者だけの団体利用はゼロ。

## 「まなびば」の取り組みの経緯

令和5年度

県生涯を通じた障がい者の学び支援事業を受託

**情報収集** 市社会福祉部局、市社会福祉協議会、個人

障がい児・者余暇活動支援事業「てくてく」の見学

「てくてく」指導員から**発達障がい児親の会**を紹介

発達障がい児親の会（たんぽぽの会）の例会に出席

■ニーズ調査

■事業説明

■学習内容の意見交換

## たんぽぽの会での意見交換

○公民館などの施設は、他の利用者に迷惑をかけるのではないかと心配で、利用しづらい。

○とてもよい事業だと思う。支援学校を卒業した後、職場（事業所）と家との往復だとストレスがたまる。

○支援学校で学習したこと、経験したことが卒業を期に途切れてしまうのは残念だ。

○卒業後も同窓生や親がつながる場をもっと作りたい。また、いろいろな人と接してほしい。

○自分（親）が支えることができなくなる将来、自立して健康的な生活を送ることができるかが不安。

○生きることの基本は「食」。自分からすすんで食生活に興味を持ってほしい。



## 令和5年度の取り組み

### ■実施日

令和6年2月11日(日)、18日(日)、3月3日(日)

### ■場 所

中津市生涯学習センターまなびん館 調理室

### ■参加者

「たんぽぽの会」のOBを中心に募集 10名参加  
支援学校中等部3年生～30歳(当時)

### ■内容(食材費、保険料徴収 1回540円)

「かんたん料理教室」講師:窪田エツ子氏(食堂経営者)  
炊飯器やホットプレートを使った料理など、家庭でも簡単に美味しくできる料理を作る。

- チキンライス
- ハンバーグ
- カレーライス
- お好み焼き
- カレーライス
- からあげ
- 手巻き寿司
- ホットケーキ など



## 令和6年度「まなびば」の取り組み

### ■参加者の募集

市内事業所7ヶ所、中津支援学校(高等部以上)

### ■日 程

月に1回、日曜日、全9回(「てくてく」事業との調整)

### ■場 所

三光コミュニティーセンター  
三光総合運動公園、まなびん館(和菓子、パン)

### ■学習内容

- かんたん料理教室
- 体験料理教室(そば打ち、パンづくり、和菓子づくり)
- ランニング教室

### ■サポーター導入(6月24日 支援者研修会開催)

- 3名(三光コミュニティーセンター料理教室関係者)



## 令和6年度「まなびば」の取り組み

### ■目 標

- 生きるための基本となる食について興味を持って、簡単な料理を自分で作ることができるように練習し、家庭でも料理に挑戦してみよう。
- 料理と運動などの活動を通して、自分の力でできたことに自信を持とう。
- この活動を通して、家族や職場、学校以外の人との交流を持ち、知り合いを多くつくろう。
- 自分の健康管理について関心を持ち、健康的な生活を送ることの大切さを知ろう。

## 社会教育としての学習目標

### 学習目標の達成のために・・・

- 講師との打ち合わせの中で、参加者が作業や運動をする場をできるだけつくる。(安全面の配慮)
- 掲示物を工夫する。
- 配膳や後片付けをできるだけさせる。
- 「いただきます」「ごちそうさま」号令は参加者がする。
- ふりかえりの時間を作り、感想を書き、発表をさせる。
- かんたん料理は、できるだけ家庭で作ってみるように促すための宿題を出す。
- 小さなことでも褒めて、成功体験を味わわせる。



1、「まなびば」の料理教室に来るようになって、できるようになったことはありますか？

- 声をかけると苦手な作業（例えば手が汚れることや包丁を持つ等）でもやってみようとする様子が見られるようになった。
- 皿洗いや食器のふきあげが上手になった。
- 家で台所に立つようになった。
- 食事の準備、片づけの手伝いをすすんでしてくれるようになった。
- いつも感想を皆の前で発表させていただき、人前で話すことに少し自信がついたように思う。（今までは極度の緊張で苦手でした）

- 「まなびば」で習って好きだったメニューを家で調理する時、積極的に食材を切ったり、混ぜたり等を楽しそうにしています。
- 一人でお遣いができるようになった。買い物に行けるようになった。
- 「まなびば」でハンバーグ作りを体験し、家で作る時は毎回こねてくれるようになりました。
- ご飯が炊けるようになり、からあげの味付けができるようになった。ご飯は母が作るものという概念が変わり、自分でもやれると思うようになった。
- 学んだ料理をすぐに家で作ってみることでレポーターがふえた。

## 2, 「まなびば」に来るようになって、食べることができるようになった食べ物がありますか？

- そばが好きになった。
- かなりの偏食ですが、大好きなそばには具や薬味をたっぷり入れて食べることができた。
- 料理を作る過程に興味を持ってきたように思う。
- 家では作ることができない物を自分で作って食べるということは格別の体験で、美味しさも増し増しでした。
- チーズ、そばが食べれるようになった。
- 今まで食べたことがない物を口にできる良い機会になった。

## 3, 「まなびば」に来るようになって、運動することが増えましたか？

- 鉄棒に挑戦するようになった。
- 1週間に1回、1時間程度、親子で体操やウォーキングやランニングをするようになりました。「まなびば」がきっかけとなり、毎回喜んでしています。
- パワフルな他の参加者を見て刺激を受けたので、運動も少しずつ取り組みたいと思っています。
- 動くことはどうしても少ない状態でした。「まなびばで」走るようになって、週に1度3km程のウォーキング、ジョギングを始めました。

●「まなびば」で運動をする機会を設けて頂いたことをきっかけに軽いジョギング（歩いたり、走ったり、準備体操）を週1回親子で楽しみながら、ゆるーくやり始めました。子ども達もうれしそうにしています。

●増えていない。運動する機会が増えるようにまずは歩きます。

●週末の午前中は1時間ほど散歩をしていますが、午後ウォーキングをする機会が増えて良かったです。集団が苦手な息子ですが、息子のペースで皆さんと同じ空間と時間を共有できたことは充実感にもつながっています。

●週1回、仲間と1時間走るようになった。

#### 4, これから「まなびば」でやってみたい事はありますか？

●ボッチャをやってみたいです。

●体をやわらかくする運動教室があればいいな。

●音楽に合わせて体を動かす（ダンスなど）

●簡単な楽しいダンス、お母さん達とコミュニケーションをとれる時間、中華料理をつくってみたい。

●歌ったり、踊ったりすることも好きなので、ダンスを覚えたいと思っています。文化的なこと、ものづくりもいいなと思います。

●みんなでカフェに行きたい。外食したい。

- 音楽にかかわる事をしてみたいです。ダンスをしたり、楽器を自由に演奏したり、歌ったりなど。絵画など文化的な事もしたいです。
- 調理は引き続きやらしていただければありがたいです。
- 「えっちゃん」から親も簡単料理を学びたいと思っています。
- 焼きそばを作ってみたい。みんなと一緒に活動ができるもの。
- 書道や筆文字アートなど、専門家に習ってみたいです。
- 障がいの特性を理解して環境を整えてくださり感謝しています。「まなびば」では料理や運動を通して支援してくださる方々との関りから「社会性」を学んでいます。少しずつ活動範囲が広がっていることもうれしいです。

令和6年度 中津市生涯を通じた障がい者の学び支援事業

主催：中津市教育委員会

# 共に学んで 広がる世界！

中津市では、障がいがある、ないに関わらず、すべての人が健康で生きがいのある生活が送れるために

「いつでも、どこでも、だれでも」学ぶことができる生涯学習の場をつくっています。

学校や勤め先以外でも楽しいことやためになることを経験して、自分をもっと高めませんか？

いろいろな人と知り合いになりませんか？みなさんのご応募をお待ちしています！



**\*対象** 知的障がい・発達障がいがある方（高校生以上）

※年間を通しての活動になりますので、すべての活動に参加可能な方が望ましいです。

**\*定員** 15名 ※応募者多数の場合は抽選となります。抽選結果は後日全員にお知らせします。

**\*申し込み方法** お電話かFAXでお申し込みください。その際、下記の事項が必要となります。

- ①受講者氏名（ふりがな） ②受講者年齢（生年月日） ③受講者お勤め先または学校（学年）
- ④住所、郵便番号 ⑤保護者氏名 ⑥保護者電話番号 ⑦食物アレルギーの有無と種類

**電話・FAX番号 0979-22-7637（中津市生涯学習センター）**

（お電話での申し込みは、月曜日～金曜日の午前9：00～午後8：00の間でお願いします）

**\*申込期間** 令和6年5月13日（月）～5月24日（金）

回	開催日	時間	場所	内容	参加費
第1回	6月2日（日）	10:00～15:00	三光コミュニティーセンター	かんたん料理	受講者のみ500円
			三光総合運動公園グランド	ランニング	無料
第2回	7月7日（日）	10:00～15:00	三光コミュニティーセンター	そば打ち	1家族1,000円
			三光総合運動公園グランド	ランニング	無料
第3回	8月25日（日）	10:00～12:00	まなびん館	和菓子づくり	1家族1,000円
第4回	9月1日（日）	10:00～14:00	まなびん館	パンづくり	1家族1,000円
第5回	9月29日（日）	10:00～15:00	三光コミュニティーセンター	かんたん料理	受講者のみ500円
			三光総合運動公園グランド	ランニング	無料
第6回	11月3日（日）	10:00～15:00	三光コミュニティーセンター	そば打ち	1家族1,000円
			三光総合運動公園グランド	ランニング	無料
第7回	12月1日（日）	10:00～15:00	三光コミュニティーセンター	かんたん料理	受講者のみ500円
			三光総合運動公園グランド	ランニング	無料
第8回	1月5日（日）	10:00～15:00	まなびん館	パンづくり	1家族1,000円
			三光総合運動公園グランド	ランニング	無料
第9回	2月2日（日）	10:00～15:00	三光コミュニティーセンター	かんたん料理	受講者のみ500円
			三光総合運動公園グランド	ランニング	無料

- 参加費（食材費）と若干の保険料がかかります。
- 1家族とは、受講者と保護者1名のことです。
- 活動時の飲料は、それぞれで持参していただきます。
- 活動場所への送迎は各自でお願いします。



**\*お問合せ\***

中津市生涯学習センター 山本  
携帯：090-5289-3781

# 「大分大学生涯学習講座 の取組」

大分県教育庁社会教育課「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」（文部科学省委託事業）

大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター  
岡田 正彦

## 1. 取組の背景

- 大分県教育庁社会教育課とは、社会教育関係職員研修や放課後子ども教室、「大分学びのステップアップ協議会」（高等学校卒業程度認定試験の支援）など継続的に連携を行ってきたため、今回の事業についてもぜひ連携に参加させていただこうということになった
- 教育マネジメント機構基盤教育センターでは、公開講座と公開授業を中心に教育面の大学開放を担当しており、リピーターも多数おられるが、あまり参加してもらえていない受講者層（障がい者が代表的）もおられることが課題となっていた



- 単体で学習機会提供を行うだけでは、地域住民全体に貢献することは難しいことから、教育機関や行政、NPO、企業など多様な主体と連携し、様々な内容の学習機会を様々な対象に向けて提供することのできる「地域生涯学習支援システム」の形成に貢献したいという課題意識もあった
- 障がいがある方については、特別支援学校など学校在籍時にはある程度充実した学習機会提供が行われているが、学校教育修了後社会に出てからの学ぶ機会がかなり厳しいと理解しており、生涯を通じた学びの支援の必要性は認識していたが、実際には取り組めていない状況が長く続いていた

## 2. 講座のデザインと準備

### (1) 講座のデザイン

- 様々な機関が学習機会を提供する中で、大学ならではの貢献ができる内容や方法は何かについての検討から始めた
- 一般的には大学は高等教育レベルの（高度な）専門的・先端的内容を体系的に教えることができることが特徴であるが、通常のやり方では障がい者の関心に合致しなかったり理解が難しいことが想定された
- まずは講座担当者が障がい者と生活状況や学習ニーズを確認し、どのような内容・方法の講座がよいかを探索しつつ講座を展開することとなった

- 障がい者対象の学習プログラムを行う上で期待される人材として大学生の関与があった。授業や関係する学科などでの声かけを通し大学生学習ボランティアと一緒に講座に参加してもらうこととした。結果的に大学生学習ボランティアと受講者のコミュニケーション・交流が講座の充実に果たした役割は大きかった。大学生学習ボランティアには、就職の際などに在学中の活動についてアピールできるように参加した会での活動内容などをまとめて「ボランティア活動履歴証明」を発行した。
- 障がい者が普段十分利用していないと考えられる大学のキャンパスで様々な施設を利用して講座を実施することも大分県教育庁社会教育課から要望があった。実際実施したところ受講した大分大学の非常勤職員も職場以外の大学施設をあまり利用していないことが分かった

## (2) 講座開催に向けての準備

- 障がい者への対応について経験の少ないスタッフばかりであったので、教育学部特別支援教育コースの教員にご指導をいただくと共に、特別支援学校教員を対象に募集を行い、メンターとして大学生学習ボランティアと連携しながら講座の運営を支援していただくこととした（1年目に応募していただいたのは、佐伯支援のO先生と新生支援のM先生で両先生には3年間継続してご支援をいただいている。また2年目の講座には新生支援のK先生にも参加していただいた）
- 特別支援学校教員のメンター募集については、特別支援学校校長会で説明・依頼をさせていただき、メンターをしていただく場合勤務としてカウントしていただくなどのご配慮をいただけることになった



- 基礎講座はワークショップ形式とし、学びのニーズ、大学キャンパス体験、自己理解と将来のイメージ、仕事と暮らしなどの現状と将来、等をお互いに出し合いながら検討してみることにした
- 講座の運営については、担当の基盤教育センター教員（センター長、専任教員）と所掌課の教育支援課が会場の準備や案内板の設置、資料の準備、会場の運営など様々な業務を担当した
- 大分大学で障害者を雇用している業務支援室が室長を中心に協力していただき、受講者を得ることができたことも大きな助けであった

### 3. 1年目の講座

- 1年目の講座実施に至るには様々な事項を検討し協議する時間がかかり、結果的に**11月から12月にかけての5回**の講座として実施することになった（受講者は4名）
- 予定した講座が終了する際、いい講座ができていい交流もできたので、もう1回追加講座を行いたいという意見が大学生学習ボランティアから出され、検討の結果、バードウォッチングと鳥の絵の制作を内容として追加講座が実施された

表1 「大分大学基礎学習講座『地域で学ぶことを体験してみよう』」のプログラム

期次	期次	担当
第1回 11月12日（金） 「1年目の講座実施に向けての準備」 （事前の打ち合わせ）	協議会 「大分大学基礎学習講座実施に向けての準備」 （事前の打ち合わせ） 協賛：大分大学基礎教育センター 協賛：大分大学基礎教育センター	協賛：大分大学基礎教育センター 協賛：大分大学基礎教育センター 協賛：大分大学基礎教育センター
第2回 11月19日（金） 「大分大学基礎学習講座の準備」 （事前の打ち合わせ）	「大分大学基礎学習講座の準備」 （事前の打ち合わせ） 協賛：大分大学基礎教育センター 協賛：大分大学基礎教育センター	「大分大学基礎学習講座の準備」 （事前の打ち合わせ） 協賛：大分大学基礎教育センター 協賛：大分大学基礎教育センター
第3回 11月26日（金） 「大分大学基礎学習講座の準備」 （事前の打ち合わせ）	「大分大学基礎学習講座の準備」 （事前の打ち合わせ） 協賛：大分大学基礎教育センター 協賛：大分大学基礎教育センター	「大分大学基礎学習講座の準備」 （事前の打ち合わせ） 協賛：大分大学基礎教育センター 協賛：大分大学基礎教育センター
第4回 12月3日（金） 「大分大学基礎学習講座の準備」 （事前の打ち合わせ）	「大分大学基礎学習講座の準備」 （事前の打ち合わせ） 協賛：大分大学基礎教育センター 協賛：大分大学基礎教育センター	「大分大学基礎学習講座の準備」 （事前の打ち合わせ） 協賛：大分大学基礎教育センター 協賛：大分大学基礎教育センター
第5回 12月10日（金） 「大分大学基礎学習講座の準備」 （事前の打ち合わせ）	「大分大学基礎学習講座の準備」 （事前の打ち合わせ） 協賛：大分大学基礎教育センター 協賛：大分大学基礎教育センター	「大分大学基礎学習講座の準備」 （事前の打ち合わせ） 協賛：大分大学基礎教育センター 協賛：大分大学基礎教育センター
追加講座 12月17日（金）	「大分大学基礎学習講座の準備」 （事前の打ち合わせ） 協賛：大分大学基礎教育センター 協賛：大分大学基礎教育センター	「大分大学基礎学習講座の準備」 （事前の打ち合わせ） 協賛：大分大学基礎教育センター 協賛：大分大学基礎教育センター

- 1年目の講座の振り返りを行う中で、学校教育修了後の障がい者の学習機会自体は少なからず開かれているものの、それぞれの学習機会がバラバラに実施されている傾向があり、結果的に物理的・情動的に生活圏域が狭い障がい者は学習機会へのアクセスが限定的で学習活動の移行など学習を発展させたり社会参加につなげたりするチャンスが不足していることが分かった
- そこで、大分大学の2年目の講座開設に向けては、講座の実施と合わせ、関係機関との連携の推進を心がけることとした

## 4. 2年目の講座

- 2年目の講座のデザインに向けて、打ち合わせを重ね、基本方針として、①大分大学の特性を生かし大学として意義を感じられる講座とすることと、②生涯学習講座に関して連携を推進し地域での仕組み作りに貢献すること、の2点を設定した
- 大学の特性を生かすことについては、大分大学の教育資源を活用すること（大学生，施設，教職員，プログラムなど）や多様な学習者がその特性に応じて学べる機会を広げること（受講者のそれぞれの特性に配慮することに加えて誰もが自分のペースや関心に応じて受講できるインクルーシブな講座のあり方を検討することなど）を重視することとした

- 学習の機会を広げることについては、地域で学習機会を提供する機関の連携による仕組み作りや具体的・個別的連携の推進に努めた。具体的には地域のコンソーシアムに参加している大分県身体障害者支援センター「あすぴあ」との連携を行った
- また、障がい者が学ぶ機会同士をつなぎ、ある学習機会に参加した人が学習活動の継続や異なる学習活動への移行、さらには学習成果や関心を生かした社会参加への接続などを意識して取り組みを進めることとした
- 大学生学習ボランティアについては、1年目の講座ではボランティアの人数が多すぎて基本的に1回しか参加してもらえず交流を深めることが難しかったことを考慮し、人数を絞って16名の参加者を得た



- 2年目に実施したプログラムは右の表の通りである
- 教育学部の廣瀬剛先生には、各自のペースで制作したいものを製作するという「アート・ワークショップ」を2回分担当していただいた。これは、障がいの有無にかかわらず参加できるインクルーシブな講座に向けた取組であり、県内各地でプログラムを実施されている廣瀬先生のノウハウを学ばせていただくことができた

開催日	場所	講座内容
①10/ 8(日)	大分大学	開講式 「アートワークショップ」企画の概要など
②10/15(日)	大分大学	「イラスト・水彩画講座」 「彫刻、粘土、アクリル画講座」 「紙面の制作など」
③10/22(日)	大分大学	「アートワークショップ」 「紙面の制作など」
④10/29(日)	あすぴあ	「イラスト・水彩画講座」 「彫刻、粘土、アクリル画講座」 「紙面の制作など」
⑤11/12(日)	COMPA あーはっく	「お悩み相談会」 学生ボランティアについて

※「あすぴあ」は大分県身体障害者支援センター(大分県大津町)を  
※内容や場等は、変更することがあります。  
※応募すべてに参加できない場合は抽選となります。  
※申し込みについては5日前までとさせていただきます。

大分県身体障害者支援センター(大分県大津町)より  
大分大学生涯学習講座 参加者募集

【主催】大分大学 大分県教育委員会  
【後援】大分県庁

【受講条件】  
①県内各大学・短大・専門学校3年生以上の方、卒業している等  
②受講希望者のお持ちの方(誘っていない場合は辞退させていただきます)  
③学業に専念がある等  
④生活によるコミュニケーションをとる手段がある等  
⑤障がいがありたい方(写しがある等)  
⑥家族の理解がある等  
⑦以上項目のすべてを満たされる等  
⑧抽選として、当日会場まで来られる方(保護者同伴可)  
⑨(※)大分大学教員まで学生ボランティアが欲しいという方も可(要予約)

【申込みから受講までの流れ】  
①申込みメールを登録してお問い合わせください。  
②大分大学教員マネジメント機構 生涯学習センターへ  
〒870-1192 oita@oita-u.ac.jp TEL:0974-594-7664  
③開催のやり直しは、参加Eメールをもらいます。  
【費用】無料  
④ただし、受講費で入会費は別途あります。  
【申込み(問合せ)時期】  
令和5年10月5日(火)

- スポーツの部分では、誰もが親しみやすいスポーツとして「ボッチャ」を指導していただき、楽しく交流しながら実施することができた
- 学習機会提供機関の間の連携や複数の学習機会をつなぐ取組の位置づけで、大分県身体障害者福祉センター（あすぴあ）に連携していただき、「あすぴあフェスタ」に参加させていただいた
- 障がい者の生活圏域が狭い傾向に着目して、大分市の中心市街地で「素敵」を発見するまち歩き調査を実施した
- 2年目の講座の受講者は13名で、うち1年目から継続の受講者は3名であった。1年目より多様な経路で知っていただき申し込んでいただくことができた（コンソーシアム委員につないでいただき受講につながったことも大きかった）

## 5. 3年目の講座

- 3年目の講座は、これまでの受講者の評価が高かった製作系の内容で構成することとし、廣瀬先生に引き続き「アート・ワークショップ」を2回お願いすると共に、都甲先生に「豊後絞り」について学び作品を作る講座（2回）をお願いした
- 大学生学習ボランティアにも、自ら製作を行いながら受講者と交流するスタイルで関わってもらったこととした。

- 3年目の講座の受講者は10名となった（内2年目からの継続受講者は2名）
- 今年度は車椅子利用の方も受講されているが、ご家族の支援もあり問題なく受講していただけている
- 生涯学習講座に加えて、個々人のニーズに合わせて学習活動を展開することを支援する「個別ニーズ対応講座」を準備している（ボランティアや仕事上のスキルなど）

## 6. 成果と課題、今後に向けて

### (1) 成果

- 当初障がい者を対象とする講座の開設経験を持たないことから不安が大きかったが、思いのほか「普通に」学ぶ機会をご一緒できている感触を得ることができた。受講者は幅広い内容に関心を示しそれなりに楽しみながら参加していただいている
- このように効果的に講座を運営できている上で、メンターとして参加して下さっている特別支援学校の先生、一緒に楽しみながら参加していただいている大学生学習ボランティアの存在は大きなものがある



- 大分大学生涯学習講座での学びが別の学び（「レッツダンスでガッツ元気の会」、ボランティアなど）につながるケースも個別的ではあるが生まれ始めている
- 大学生学習ボランティアは、メンターなどの支援を受けることで、事前の経験や研修無しでも有効に障がい者と交流し学びをご一緒できることが分かった
- 受講者の中で、生涯学習講座を受講するだけでなく、今後別の学びや人間関係、仕事、社会参加などにつなげていきたいというニーズを持っていただくことが徐々にできてきている。今後ニーズを検討していただきつつ、なるべく有効に「つなげる」取組を行っていきたい

## （2）課題

- 講座に参加していただいたメンバーには楽しみながら参加していただいているが、本来この取組が対象とする人々の中ではごく一部に過ぎない。特別支援学校高等部在学中からのアクセスや障がい者の職場との連携、障がい者の家族との連携など多様な連携を通して受講者層を拡大していきたい
- 生涯学習講座と別の学習機会との連携・接続もまだ初発的な段階にある。様々な出会いを通して学びや交流のネットワークが広がるよう工夫していく必要がある
- 障がい者の生活圏域や自由時間などを考慮して日常的にアクセスしやすい場所・曜日や時間帯での学習機会を豊かにするよう連携して取り組む必要がある

- 生涯学習講座に関わっていただいた大学教員や特別支援学校教員、大学生学習ボランティアなどは、ご縁があって関与していただき様々な貢献をしていただいたが、まだ個別的・部分的な関係に留まっている。今後障がい者の学習機会に関わる人や組織を広げると共に、学びと社会的な活動や仕事をつなげていく取り組みも必要である
- 障がい者だけを対象とするプログラムもあってよいが、可能な範囲では障がいの有無に関係なく共に学べる機会や人的ネットワークなどを形成していくことが必要である

### (3) 今後に向けて

- 現在までは文部科学省委託事業として講師謝金や消耗品、プログラム運営の支援など大分県教育庁社会教育課から大きな支援をいただいているが、今後自走化していく必要がある
- 地域の障がい者が様々な学習機会を選択しつなげて豊かな学びを展開していただくためには、受講者層の拡大や受講者数の増加を図る必要がある一方、講座運営体制は十分でなくバランスを取りながら取組の推進を図る必要がある
- 障がい者の家族や障がい者と活動しているNPO等を除くと障がい者と関わった経験が少なく、障がい者と関わることの意義も感じられていないケースが多い。交流などを推進し知り合いと一緒に過ごす機会を増やす必要がある

- 単独の機関などが個別的に学習機会を設けるだけでなく、機関間の連携や教育と福祉の連携などで障がい者の視点に立ち生活全体の支援ができるような仕組み作りに向け取り組んでいく必要がある
- 課題は多いが、取組を始めたことで、生き生きとした学習関心を持つ障がい者と一緒の学習の時空間を持つことでお互いにメリットを得られる取組はご一緒できることを実感した。今後大学としては、学習機会提供のみにとどまらず障がい者の生活の充実・生活満足度の向上に関わってつないだりコーディネートしたりする機能を高めることを目指したい

